

18
4726
9

桐葉

桐葉の

葉の

田崎

48
4726
9

片桐邸

日くらしあはれゆくも
 病をすべし日故より
 つもりのあまご
 ●若党下殿の侍は
 高司の侍の侍は
 郎党十何十は
 是等より
 城の筆跡
 いしは
 馬鹿の
 諸々の
 心細
 今朝未明の
 をあんな
 翻説
 の

01

用紙

との御記請文片
上の梵天帝釋の
下のけんら



稲荷祇園



白大小の

うちへん
神祇に
神祇に
神祇に

神祇に
神祇に
神祇に
神祇に

神祇に
神祇に
神祇に
神祇に

神祇に
神祇に
神祇に
神祇に

神祇に
神祇に
神祇に
神祇に

神祇に
神祇に
神祇に
神祇に

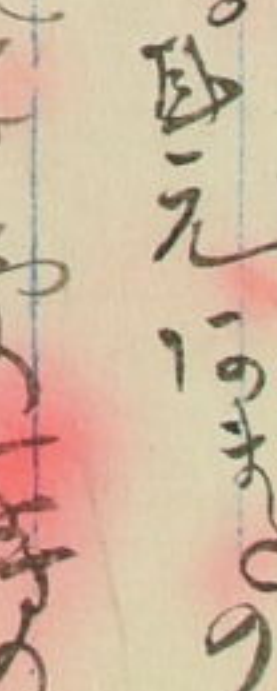
神祇に
神祇に
神祇に
神祇に

用紙

尾圖

きらめく手
鏡子
鐵

しるし... 無傳の振舞子



人聲... 血氣をたぎらす時の

想... 無傳の振舞子

伊... 可憐な子

ま... 見苦しく

ま... 立止る

ま... 其の方

縁... 返り

ま... 侍面

ま... 郎党

ま... 意外

ま... 無念

ま... 其の甲斐

ま... 今期

ま... 大目

ま... 義

ま... 二刀

ま... 楯

ま... 其の

ま... 詩

の

事子幼れ氣所かナリしが
 秋が名子 因に庭前の梧桐葉
 く揺るるし 悔なきらん 天地の秋
 糖豆を煮る 白見えあまき
 〇のひき堂えさ
 長幼のなみ
 〇のひき堂えさ